

7. 采女城跡保存会

設立の経緯

地元では古くから、采女城は織田信長に滅ぼされ、落城の際お姫様が井戸に身を投げたという話が伝わり、子どもたちは城山のでっぺんに立っているノッポの木が揺れていると「お姫様が泣いている、怨霊で揺れている」といって眺めたり、また古井戸に行った貝家の人が馬に乗った二人の侍に追いかけられたという古い話を祖母から聞いたなどの言い伝えが伝わり、地元の人には身近な存在であった。

采女城跡がある北山は、昭和 20 年代までは地元の里山として薪燃料や肥料の採取地として、また松茸や茸の採集などに利用されていた。昭和 30 年代以降高度成長時代に入ると山林の利用価値がなくなり、以後 40 年あまり手入れのされないまま松林は枯れ、雑木林にネザサが 2~3m の丈となって密生し、足の踏み入れ様もない有り様となっていた。

「内部郷土史研究会」をはじめとする内部地区内の有志から「三重県下でも例をみないほど戦国時代の城砦の構造をよく残している。地域の貴重な遺産を整備して後世に引き継ぎたい。」との声が上がリ、平成 14 年（2002）10 月采女城跡保存準備会を設立。その後本丸跡（一の郭）の整備を中心に進め、平成 15 年 6 月 7 日采女城跡一の郭において采女城跡保存会設立総会を開催し、会員数 41 名でスタートした。

会の活動により采女城跡は全国的にも知られるところとなり、平成 23 年には四日市市市民緑地に指定され、近年は四日市中央ライオンズクラブの支援により遊歩道の整備が進み、多くの人が訪れている。

活動の内容

- ・ 城跡の整備（定例作業）
植物管理（笹の除伐、雑木の間伐、倒木の整理）
遊歩道整備、橋・木道取付、安全柵取付
案内板、遺構の説明板設置、樹木名札取付
四日市中央ライオンズクラブによる遊歩道整備（平成 25 年～）
- ・ 城跡の活用
小学校の野外体験活動、地区社協イベント等への協力
城跡見学者への案内・対応
城跡から南部丘陵公園に続く広域散策道として整備
四日市市市民緑地としての運用（平成 23 年指定）
- ・ 郷土遺産への関心を高めるための活動・広報
歴史講演会開催
史跡見学会（歴史をたずねるバスツアー）開催
保存会広報紙「采女城通信」の発行
リーフレット制作（平成 15 年・30 年改訂）
イベントでの PR・解説
- ・ 采女城跡の調査・研究
冊子発行『采女城跡の植物』（平成 28 年）
解説 DVD 制作（後藤の城采女城跡・歴史編・案内編）（平成 29 年）
冊子発行『采女城主後藤家の興亡』（令和 3 年）
- ・ 史跡指定に向けた活動
上記の活動を通じて采女城跡の意義・重要性を広く市民に訴え、地権者の了解を得たうえで「史跡指定」を目指す

